

科目名	文学入門	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	稲垣 広和	単位	2	年次	1

### ＝授業科目の目標＝

本講義は日本近現代文学の小説を、「読み」かつ「考える」ことによって「文学」の基礎を理解することを目指す。さらに「文学」を考える上での周辺領域についても文学作品の鑑賞を通して議論していく。例えば「文学と政治」「文学と経済」「文学と性」「文学とサブカルチャー」などいろいろなテーマを設定して、受講生全体で意見を出しながら講義を進めていく予定である。講義形態であるが、積極的に意見交換の場とするつもりであり、双方向の講義を行う予定である。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

履修に関しては特に条件はないが、日本の小説およびその周辺領域等に興味を持っている学生に受講してほしい。講義内では受講生に積極的に意見を求めるので高い問題意識を持って講義に臨んでもらいたい。また講義中に感想文を求めることもある。資料配布に関しては、当日配布のみとし、資料の予備は保管しない。講義中の私語は禁止とし、他の受講生に迷惑をかけると思われる場合は退室を求める場合もある。30分以上遅刻した場合は欠席と見なし、遅刻、早退、中途退席等2回で欠席1回とする。講義中の課題や宿題の提出は、提出期限以外は提出不可とする。

### ＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認（キーワード）講義の概観
- 2回 近現代文学史概論（キーワード）近現代の日本文学の歴史
- 3回 夏目漱石について（キーワード）作家論と時代認識、漱石概観（1）
- 4回 夏目漱石の小説について（キーワード）漱石概観（2）
- 5回 漱石の初期小説① 「倫敦塔」（キーワード）文学における幻想性・明治期の留学という制度
- 6回 漱石の初期小説② 「琴のそら音」（1）（キーワード）漱石と落語・漱石と心理学・
- 7回 漱石の初期小説② 「琴のそら音」（2）（キーワード）・「坊つちやん」の続編としての物語
- 8回 「三四郎」①（キーワード）「三四郎」概観、「三四郎」のモデルと評価
- 9回 「三四郎」②（キーワード）青春小説というカテゴリー、上京小説について
- 10回 「三四郎」③（キーワード）役割の変位性について、「新しい女性」について
- 11回 「三四郎」④（キーワード）成長小説（ビルドゥングス・ロマーン）について
- 12回 第2次世界大戦後の社会状況概観（キーワード）混沌とした文学状況
- 13回 戦後の若者の価値観について（その1）（キーワード）小谷剛「確証」と「四天王」①
- 14回 戦後の若者の価値観について（その2）（キーワード）小谷剛「確証」と「四天王」②
- 15回 戦後の若者の価値観について（その2）（キーワード）石原慎太郎「太陽の季節」
- (16回) 定期試験

### ＝成績評価の方法と評価の基準＝

定期試験期間中に筆記試験をおこなう。この定期試験では講義中に解説した文学的な基本知識を問うもの（50%）及び講義中に解説した文学的諸課題（50%）について出題をする。文学的諸課題とは「第2次大戦後の若者の道徳意識と文学」や「文学における性表現」等々である。この定期試験を全体評価の80%とし、残りの20%は講義中に提出する感想文又は提出課題（宿題）を点数化し全体評価に加える。なお、出席点はなし。また講義の進捗状況によってはレポート試験に変更する可能性もある。

### ＝その他＝